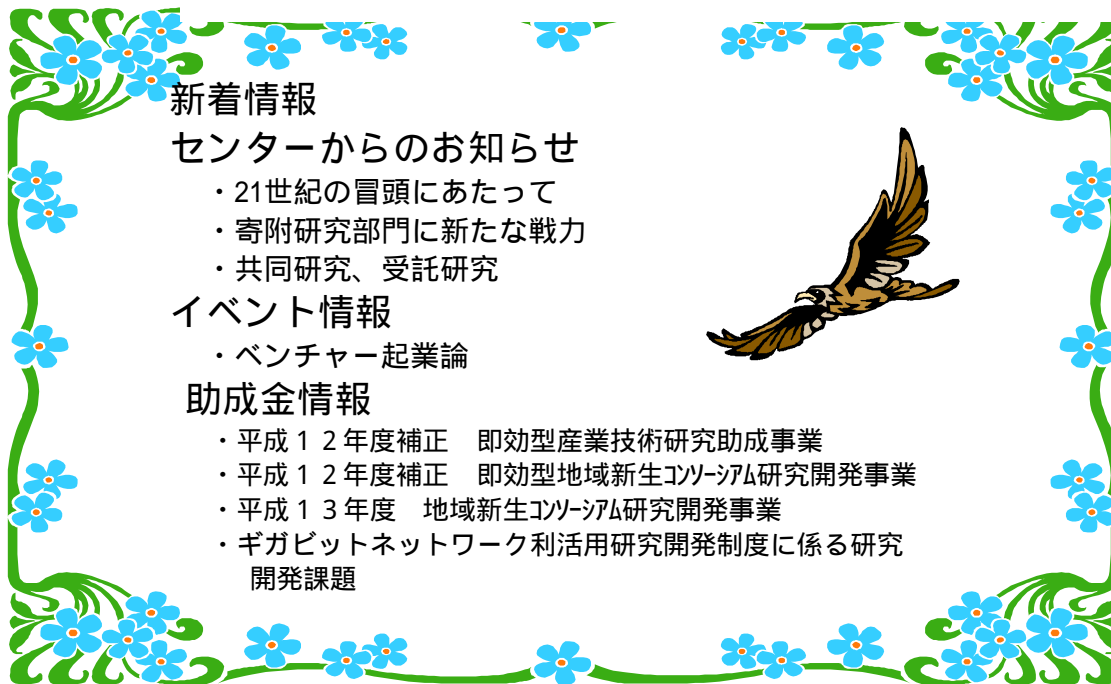




News Letter

Collaborative Research Center, Yamaguchi University



新着情報

センターからのお知らせ

- ・21世紀の冒頭にあって
- ・寄附研究部門に新たな戦力
- ・共同研究、受託研究

イベント情報

- ・ベンチャー起業論

助成金情報

- ・平成12年度補正 即効型産業技術研究助成事業
- ・平成12年度補正 即効型地域新生コンソシアム研究開発事業
- ・平成13年度 地域新生コンソシアム研究開発事業
- ・ギガビットネットワーク利活用研究開発制度に係る研究開発課題

新着情報

注目

1. 平成13年度助成金の募集始まる

NEDO（新エネルギー産業技術総合開発機構）や各種機関などから出された2000年度から2001年度にかけての助成金情報を、本ニュースの終わりにまとめましたので有効にご活用下さい。

2. 平成13年度共同研究の募集

平成13年度の共同研究、区分（A）の募集が1月下旬頃より開始されます。ご予約のある先生方は、お早めにご計画ください。

共同研究

経費区分	民間機関等 負担直接経費	大学負担 研究費	内 容
A	要 (300万円以上)	有	・大学も研究経費の一部を負担するもの ・民間機関等から共同研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れるもの
B	要	無	・民間機関等から共同研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れるもの
C	不要	無	・民間機関等から共同研究者のみを受け入れるもの

共同研究者を受け入れる場合には1人あたり42万円の研究費が必要です。

締め切り：区分A 平成13年2月19日（月）

区分B、Cは随時

なお、継続の場合は、速やかに手続きをお済ませ下さい。

問い合わせ先：研究協力課研究協力第1係 TEL：0836-85-9960

21世紀の冒頭にあたって

センター長 三木俊克

新年、明けましておめでとうございます。21世紀の冒頭という節目の年に、地域共同研究開発センターは設置10周年を迎えることとなります。この10年間に、山口大学の民間等との共同研究も着実に伸びてきて、本年度はついに共同研究件数が100件の大台にのることが確実になりました。この間、教職員の皆様ならびに地域社会の方々から様々なご協力とご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

山口大学というコミュニティーはもちろん単独では存在できず、常に社会との関わりの中で生き、発展していかざるをえないものとなっています。21世紀には、この傾向は従前に増して強くなるでしょうし、社会貢献を意識すること無しには大学の存立自体が危うい時代になっていくと思われれます。

地域共同研究開発センターは、その名が示す通り、産業界との共同研究などを通じて、大学の社会貢献の一端を果たすことを主目的として置かれている組織です。この10年間を振り返ると、工学、医学、農学などのいわゆる応用自然科学分野での活動が中心となってきましたが、理学、社会科学あるいは人文科学分野でも様々な社会ニーズがあり

ます。したがって、そうした分野での活動も今後は強めていく必要があります、地域共同研究開発センターも全学のセンターとしての活動の強化を計っていきたくと考えています。

ところで、産業界と大学の研究開発では基本スタンスが異なっている場合が多々あります。しかし、これは当然のことで大学は大学としての基本スタンスを持っていることが重要で、いわゆる「産学連携ブーム」の中で大学が産業界の草刈場になってよいわけではありません。目線を合わせることに基本スタンスを合わせることはまったく別問題であって、今、必要なことは、産業界との目線を合わせることだと思われれます。よく、地場中小企業の方から「大学は敷居が高い」と聞きますが、目線を合わせて基本スタンスの違いを相互理解してもらえればこうしたことはなくなっていくと思われれます。

センターは小さな組織であって、学内外の方々からのご協力とご支援がなければ、その役割を十分には果たせません。大学をめぐる状況には難しいものがありますが、センターが果たす役割の重要性をご理解いただき、ご協力とご支援をお願い申し上げる次第です。

寄附研究部門に新たな戦力

山田音夫助手が着任

11月1日付で、地域共同研究開発センター寄附研究部門「産業創造」の助手になりました。これまで私は、学部生、大学院生として山口大学で過ごしてきました。しかし、残念なことに今まで、ベンチャーや産業創造といった観点から、この地域について考える機会はあまりありませんでした。

どうやら、大学や地域、そしてこの日本もこれからの流れに対応できる変革が必要とされて来ているようです。自分自身、宇部市で育ってきたこともあり、長い間この地で色々とお世話になってまいりました。

向山教授をはじめとするこの「産業創造」のお手伝いを通して、幾分でもその恩返しが出来ればと考えています。また、このチャンスを生かして自分も様々な分野の方々から学ばせて頂こうと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。



氏名 山田音夫（やまだおとあ）
生年月日 昭和46年8月16日
研究分野 物理化学、電気化学
趣味 音楽鑑賞、ツーリング

共同研究・受託研究

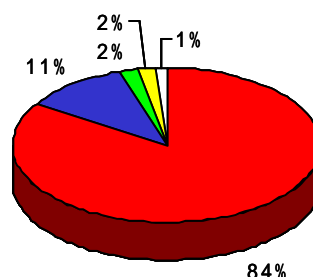
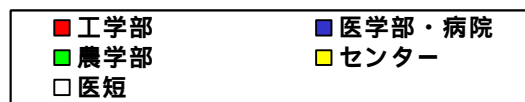
平成12年12月末での共同研究・受託研究の状況をお知らせいたします。
 昨年度の共同研究は77件で、旧帝大、東京農工大、東京工業大に続き全国で10位でした。本年は、12月末で101件になりました。

共同研究件数ランキング (上位20大学、平成11年度)

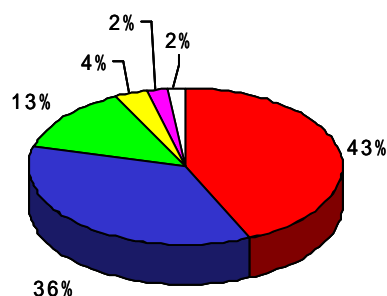
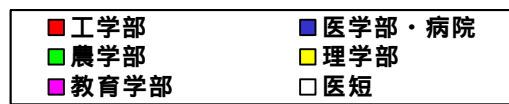
順位	大学名	件数
1	東京大学	155
2	名古屋大学	126
3	大阪大学	124
4	東北大学	123
5	北海道大学	96
6	京都大学	96
7	九州大学	90
8	東京農工大学	87
9	東京工業大学	81
10	山口大学	77
11	岩手大学	74
12	三重大学	69
13	神戸大学	65
14	横浜国立大学	61
15	新潟大学	55
16	京都工芸繊維大学	53
17	福井大学	51
18	静岡大学	49
19	岐阜大学	46
20	熊本大学	46

山口大学の共同研究・受託研究実績 (12年12月末)

・共同研究件数	101件
区分	
A	5件
B	96件
C	0件
・受託研究件数	53件



共同研究の学部別内訳
 (総数101件、平成12年12月末)



受託研究の学部別内訳
 (総数53件、平成12年12月末)

大学院特別講義・社会人特別研修講座

「ベンチャー起業論」

日 時：平成13年1月11日（木）、18日（木）14:30～

場 所：地域共同研究開発センター情報セミナー室

講 師：寄附研究部門「産業創造」教授 向山尚志 氏

全15コマ（1コマ90分）のうち、12コマは終わりましたが、引き続き3コマ分の講義がありますので、奮ってご参加ください。

内 容：「ベンチャービジネス育成の課題とビジネスインキュベーション」
「ベンチャービジネスの経営課題」など



Grant Information

助成金情報

- ・平成12年度補正 即効型産業技術研究助成事業（若手研究者向け）
助成金額：2000万円/テーマ
採択数：45テーマ
期 間：平成13年3月31日（但し、1年以内に限り延長可能）
助成対象：若手研究者個人または研究チーム
公募期間：平成13年1月11日（木）まで
「地球環境保全技術開発事業」も募集しています。詳細はNEDOホームページ（<http://www.nedo.go.jp/>）の「プレス発表情報」をご覧ください。

- ・平成12年度補正 即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業
即効型地域新生コンソーシアム研究開発IT（情報通信）枠と一般枠があります。
助成金額：1億円程度/年（1プロジェクト）
採択数：10件（各枠につき）
研究期間：平成13年3月31日
公募期間：平成13年1月15日（月）まで



- ・平成13年度 地域新生コンソーシアム研究開発事業
地域新生コンソーシアム研究開発、地域新生コンソーシアムIT研究開発、地域新生コンソーシアム研究開発（地域新技術創出研究開発）があります。
助成金額：1プロジェクトにつき1億円程度/年
（地域新技術創出研究開発は1プロジェクトにつき1千万円～3千万円程度/年）
採択数：各数件程度
研究期間：平成13年度から3年以内（地域新技術創出研究開発は1～2年以内）
公募期間：平成13年1月5日（金）から
コンソーシアム事業の詳細はNEDOホームページ（<http://www.nedo.go.jp/>）をご覧ください。

- ・ギガビットネットワーク利活用研究開発制度に係る研究開発課題
助成金額：1課題あたり4千万円を上限とする
提案資格：単独の研究機関に所属する研究者若しくは研究チームからの「単独提案」、または複数の研究機関の研究者から構成される研究チームからの「共同提案」
研究期間：最長1年間（平成14年3月31日まで）
公募期間：平成13年1月9日（火）～2月6日（火）

詳細は、通信・放送機構ホームページ（<http://www.shiba.tao.go.jp/>）をご覧ください。

YUCRC

連絡先：〒755-8611 宇部市常盤台2丁目16-1
発 行：山口大学地域共同研究開発センター
電 話：0836-85-9951 FAX：0836-85-9952
E-mail: jim@cnt0.crc.yamaguchi-u.ac.jp

